

ビバハウスだより NO.99 号外

ビバハウス と NPO 法人農業塾「風のがっこう」との共同事業について

2014年7月28日

青少年自立支援センター ビバの会 ビバハウス

代表 安達 俊子

このほど両団体で正式に合意された共同事業の内容は以下のとおりです。

1) 事業目的

両団体相互の特性を補完しあって、両団体のそれぞれの目的をよりよく利用者のために実現するため。

農業塾「風のがっこう」は主として年金生活者に対して、副収入としての農業収入（主として野菜の生産により）の確保を目指している。これに対して、ビバハウスは、若者の農業体験を通じての自立生活への道筋をつける事を目標にしている。

しかし農業生産の厳しさから、高齢者のみの活動には限界もある。若年者主体のビバハウスとの共同事業により、より高い生産性を実現したい。

またビバハウスのみ現在の条件では、農業の専門的な知識にも、実践にも欠けるため、豊かな指導力量を持つ、「風のがっこう」（長谷川豊理事長・元岩見沢農業高校学校長、前酪農学園大学教授）との共同により、若者の自立支援に向けた実践を目指すことが可能になる。

2) 「ビバ農業実践塾」発足への取り組み

共同事業の取り組みにより、これまでのビバハウスの全実践を集約し、新たに「ビバ農業実践塾」を発足させる。（本年度をその準備期間とする。）

準備作業の第1弾として、ビバ・モンガク農場の未利用地（約3ヘクタール）の整備（草刈）をすでに終了した。今後は年間を通しての農作業を実施するため近日中に、約100坪分のビニールハウスの資材を搬入予定になっている。（連合北海道の皆さんのご協力により実現。）

これにより、これまでの短期間、小規模野菜栽培を、2～3年間の農業実践の演習で、各人の力量に応じて自活生活への道が切り開けるようにする事を目指す。

3) 「年寄り・若者元気村」構想の推進を目指す

この両団体の共同により、言葉通り「お年寄り」と「若者」がともに力を合わせ、健康で長生きが喜びになる社会の実現を目指す。

余市での「ビバ元気村」と合わせ、「風のがっこう」所在地の札幌市南区小金湯での「元気村」構想を共同の力で推進し、来るべき「みんなが生きている事とともに喜び合える社会」のモデルを作る。